

⚠️ 申請書受付 6日(木) 午後5時まで

※この日のみの受付です。特に郵送は期日指定で

◎提出時、署名欄を再度確認してください

◎3傷以上の負傷原因は、負傷原因欄に各傷病毎記入してください

「大石 康会員快走」五輪聖火ランナー



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、1年延期された東京2020オリンピックの聖火リレーが令和3年3月25日(木)、福島のナショナルトレーニングセンターJヴィレッジをグランドスタートした。

都道府県やスポンサーが選定した市民や著名人ら約1万人がランナーとして参加し、7月の大会まで全国を巡る。

大会組織委員会は新型コロナウイルス感染症対策のため、居住する都道府県以外での応援を控える他、沿道での密集を避けるため感染対策に神経をとがらせた。またインターネットのライブ中継での視聴も推奨した。

4月6日(火)午後5時過ぎ、「健康都市おおぶ 夢ふくらむ大府の未来」の看板が掲げられた大府ロータリー特設会場において、ミニセレブレーションが行われ、大府市出身で1992年バルセロナオリンピック柔道男子78kg級金メダリストの吉田秀彦氏がゲストで紹介され拍手が沸き起こった。

午後5時40分、聖火ランナーとして我が公益社団法人愛知県柔道整復師会・半田支部の大石 康会員が聖火を掲げてスタート。少々緊張気味か笑顔は少なかったが、詰めかけた大勢の観衆や五輪を夢見る少年柔道の教え子たちに笑顔で手を振り、見事に走りぬき大役を果たした。当初、柔道には自信が、ランニングでは息切れが心配されたが、思ったより軽やかな足取りに沿道から拍手がわいた。無事走り終えた大石先生のコメント「二年越しにほっとした」と。

詳細は、愛整広報80刊にて。(半田支部 竹内 康)

Welcome!!

新入会員



林 功栄会員



長谷川 渡会員



堺澤 正和会員



← 古井戸 康男会員

佐々木 拓人会員 →



氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
林 功栄	S51.2.3	中村	関西医療学園	初段	スノーボード
長谷川 渡	S54.8.21	岡崎	名古屋医専	—	映画鑑賞
堺澤 正和	S37.4.3	岡崎	中部柔整	初段	空手
古井戸 康男	S40.1.9	笠寺	米田柔整	4段	読書
佐々木 拓人	H7.6.3	熱田	トライデント	—	スノーボード

刈谷支部通常総会開催



令和3年4月4日(日)午後4時から木曾路東刈谷店において、令和2年度刈谷支部通常総会が出席者35名で開催された。

昨年は新型コロナウイルス感染防止のため中止となったが、今年は懇話会を行わない形で開催した。

星野 彰二支部事業担当の開会の言葉の後、竹内 健二支部長が、令和2年度を無事終えることができたことに謝辞を述べ、下記の事項について報告した。

- ・名古屋市長選挙について
- ・愛知県新型コロナウイルス感染防止対策事業費補助金について
- ・一時支援金について
- ・連絡網について
FAXで受けている先生は、FAXを自動受信に設定すること
メールアドレスを持っていても、まだ会に登録していない会員は登録を指示した。
- ・3月28日(日)に開催された、第9回愛整少年柔道形競技会岡崎刈谷支部代表選考会について

議事に入り、令和2年度事業報告、部会収支決算報告、会計報告が行われたのに続いて、令和2年度法人会計収支決算書、連盟会計収支決算書の報告と監査報告が行われ、全ての議題が挙手多数で承認された。さらに、令和3年度事業計画(案)も挙手多数で承認された。その後、支部長選任において、竹内 健二支部長が選任され再任することになった。

最後に質疑応答を行い、午後5時15分に終了した。

(刈谷支部 岡田忠士)

柔道・古賀さんと親交の男性

仲間



大府市では、三月に急逝した五輪金メダリストの古賀裕彦さんと親交があり、地元で道場を主宰する柔道家の大石康さん(本心がトーチを掲げた。指導者仲間であり、ライバルでもあった二人。教え子の子ともが見守る中、一歩ずつかみしめるように走った。

指導に共感 語り合った

古賀さんの出会いは三十年ほど前。大府市出身の柔道家吉田秀彦さんを東京の私塾に送り込んだ際、彼らの上級生が古賀さんだった。

道場で五輪を夢見る教え子たちに笑顔で手を振った。「あれだけの選手。亡くなるなんて思ってもみなかった。信じられない」と早すぎる死を悼んだ。

は一人がそろうって金メダルに輝いた。

二〇〇四年アテネ五輪では、大石さんが子どもの頃に指導し、古賀さんがコーチを務めた安城市出身の谷本歩実さんが金メダルに、「古賀さんの指導のおかげで、谷本はバランスのいい選手になったと、指導者としても尊敬していた。

古賀さんが川崎市に道場を開くと、ライバル関係に。大会などで顔を合わせるたびに指導について意見を交わした。「強い選手ではなく、柔道好きの子どもをつくりたい」と話す古賀さんにも共感。その先に強い選手が育つことを、大石さんも知っている。「柔道の本質」を語り合った。

中日新聞 4月7日朝刊

(栗山真寛)